| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ．理念に基づく運営<br>1．理念の共有 | | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。 | 地域密着型サービスについて職員全員で確認し、住み慣れた地域で安心した暮らし、地域生活の継続ができるるような支援を理念としています。<br>地域のなかで、一人ひとりがその人らしく生活することを支えるために日々職員全体で話し合いを行っています。 | | |
| 2 | ○理念の共有と日々の取組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 勉強会、会議などでは、理念について職員全員で話し合い日常的実践が理念に基づいたものになるように取り組んでいます。<br>運営理念を提示し、毎日の朝礼で復唱して理念に必ず触れ、確認し合うようにしてから仕事を始めることにしています。 | | |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透<br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。 | 御家族やホーム見学の場面で分かりやすく説明したり、地域住民に対してホーム便りを発行し地域の人に配っています。<br>パンフレットを作成しホーム内に明示し、入居者及び御家族に説明しています。 | | |
| 2．地域との支えあい | | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい<br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしています。<br>町内会に入会し、日頃より交流が行えるように努めています。 | | |
| 5 | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 地域のお祭り、盆踊り等には入居者とともに積極的に参加している。<br>地域の主婦がボランティアとして活動しに来てくれています。<br>学生ボランティア、一般ボランティアの受け入れを行い、入居者との交流を図っています。 | | |
| 6 | ○事業者の力を活かした地域貢献<br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 事業者が医師であるため、入居者の健康管理はもちろん地域の医療にも貢献している。<br>人材育成の貢献に実習生受け入れも積極的に行っている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| ３．理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 評価の意義や目的を全職員に伝えて、全員で自己評価に取り組むようにしている。<br>外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向け検討や日々のケアにつなげるための努力をしている。<br>時間を取り、全員で自己評価に取り組むようにして職員の意識あわせを行っている。 | | |
| 8 | ○運営推進介護を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議の開催を10月に予定し、調整中。<br>運営推進会議の開催。 | | |
| 9 | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 柏木内科医院の院長が町の介護認定審査会の会長をしており、月に1～2回町の担当者と意見交換を行っており、その経過を管理者等とミーティングをしている。<br>入居者の受け入れ状況などの問い合わせと、入居者の困りごと等の相談、助言をうけている。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br><br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 成年後見制度が必要なケースに至っていないが制度を全員が学ぶ機会を持てるようにする。<br>研修会への参加。 | | |
| 11 | ○虐待の防止の徹底<br><br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。 | 勉強会、ミーティングを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解や遵守に向けた取り組みを行っている。<br>常に職員の意識向上に努めている。 | | |
| ４．理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得<br><br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。 | 入居前は重要事項に時間を取り丁寧に説明し、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲についての説明も行う。<br>説明時は入居者、家族等に合い間で説明に対しての疑問などはないのか尋ねながら進めるようにしている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映<br><br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、入居者本位の運営を心掛けている。<br>入居者の不安、意見等は話し合いの時間を取り、特定の職員の中で埋もれさせないようにしている。<br>意見や苦情、思いを伝えてもらえるような雰囲気作りに職員船員で心掛けている。 | | |
| 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。 | 御家族等の来訪時には、声掛け、入居者の暮らしぶりやエピソードなどの様子を伝えている。<br>金銭管理は、出納帳を確認してもらいサインをいただいている。<br>行事や日々の様子の写真を貼り出し、又ホーム便りを配布している。<br>個別に電話などで様子を知らせている。 | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 御家族には、訪問時、電話等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。<br>出された意見はミーティングで話し合い反映させている。<br>相談や苦情を受け入れるホームの窓口、職員が明確にわかるように提示している。 | | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映<br><br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ミーティング、勉強会、個別面談を行い意見を聞くようにしている。<br>日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている。<br>ミーティングにテーマ、課題を決めて話し合い、意見を出しやすいようにしている。 | | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br><br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。 | 入浴日等充分な人員が確保できるようにローテーションを組んでいる。<br>管理者はその都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。 | | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 職員が代わる時はダメージを防ぐために引継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。<br>新しい職員は自己紹介をし、入居者から日々日常のホームのことを教えてもらうようにゆっくりした時間を取るようにしている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| ５．人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 日常的に学ぶことを推進し、研修、学習会などは順番に参加できるようにしている。<br>見習い期間を設けたり研修会に出席し、他職員に内容を報告し、全職員が共有できるようにしている。 | | |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 関連の事業所や、同時期に開所した事業所などと学習会や交流会をもつようにしている。 | ○ | 他グループホームの見学や研修会での事例検討等を通してケアに役立てていきたい。 |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | 職員の疲労やストレスの要因に気を配り、気分転換できる休憩室を確保している。<br>日常や面談時に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。 | ○ | 職員同士の親睦を図るため、食事会などを企画し実行している。 |
| 22 | ○向上心をもって働き続けるための取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。 | 職員の資格取得に向けた支援を行っている。活かせる医亜kセル労働環境づくりに努めている。<br>地域などでの勉強家への参加支援をしている。 | | |
| Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援<br>１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係<br><br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 事前面談で生活状態を把握するように努めている。<br>本人に面談をし、心身の状態や思いを聞き、本人と向き合う時間を作るようにしている。<br>職員が本人に受け入れてもらえるような関係づくりに努めている。 | | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係<br><br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 家族が今何に困っているのか、ニーズが何なのか等、話を十分に聞く時間を作るようにしている。<br>今までの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援<br><br>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案を行っている。<br>入居者が今まで受けてきたサービス、担当ケアマネージャー等に本人、家族の同意を受け、聞き取りなどを行い必要なサービスにつなげている。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 本人や家族には、ホーム内を見学してもらうことから始めている。<br>やむを得ずすぐに入居される時は、本人に今まで関わってきた方、家族に一緒に来てもらい、安心感を持ってもらうようにしている。<br>本人の安心と納得を大切にした利用の支援に努めている。 | | |
| ２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | 本人の思い、不安、喜びなどを知ることに努めている。<br>共に支えあえる関係づくりに留意している。<br>入居者は人生の先輩であるという考えを職員全員が共有している。 | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係<br><br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 職員は家族の思いを感じ取りながら、暮らしの中での出来事や気付いたことの情報共有に努めている。 | ○ | 家族会の開催をしていきたい。 |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br><br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。 | 地域やホームの行事に誘ったりしながら良い関係の継続に努めている。<br>本人の日頃の状態をこまめに報告するとともに、電話で本人と家族がお話できるように仲介などを行っている。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 地域に暮らす馴染みの知人、友人等が気軽に遊びに来てもらえるような雰囲気作りに努めている。<br>電話や手紙での連絡を取り持つ等のつながりを継続できる支援を行っている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 31 | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | 個別に話しを聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間づくりをするなど、入居者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。<br>心身の状態や気分で日々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。 | | |
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 退去された方にも行事に招待したり、遊びに来てもらえる関係づくりに心掛けている。<br>継続的な付き合いができるように心掛けている。 | | |
| Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント<br>１．一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 一人ひとりの思いや暮らしの希望、本人の気持ちに向き合い、本人の視点に立って意見を出し合い、話し合いなどの取り組みをしている。<br>意思疎通が困難な方には御家族や関係者から情報を得るようにしている。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握<br><br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | その人独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を把握するように努めている。<br>本人自身の語りや、家族訪問時などに話を聞き、把握に努めるようにしている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握<br><br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | 本人自身の生活のなかで、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。<br>職員全員で日々の中で特に見落としてしまいやすい出来る力を見極められるようにミーティングで話し合いを行っている。 | | |
| ２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。 | 自分らしく暮らせるよう、本人、家族の要望を聴き、関係者全体で意見を含めてスタッフ全員で話し合い課題を明らかにして介護計画に結び付けている。<br>アセスメントを含め、職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 安定されている入居者でも月に1回程度本人、家族の今の意向や状況を確認し、期間が終了する前に見直しをし、検討を行っている。<br>介護計画策定時に柔軟かつ臨機応変な対応ができる計画作りに努めている。 | | |
| 38 | ○個別の記録と実践への反映<br><br>日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別にファイルを用意し、日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。<br>業務に入る前に記録を確認し、申し送りをしっかり行っている。 | | |
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 入居者が急変時などは、すみやかに医師及び看護士に往診してもらい、注射、検査または適切な病院への紹介等を迅速に行っている。<br>医療連携体制を活かして受診や入院の回避で負担の軽減をはかっている。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○　地域資源との協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。 | 常にグループホームの入居者の情報（徘徊等）に関して日頃より連絡を蜜にとり、グループホームの定期的な情報（おたより等）により連絡をとっている。<br>当グループホームには生保の入居者も数多くおり、民生委員の方とは常に細かい情報の交換を行っている。<br>地域生活を継続していくため、さまざまな接点を見出せるように警察、消防、ボランティア等と交流するように努めている。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援<br><br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。 | 講習会などに参加し、他の事業所のケアマネージャーや町の職員と情報交換をして普段から他につながるサービスの支援を行っている。<br>入居者の希望を叶えるために、介護保険以外のサービスがないか情報収集に心掛けている。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 成年後見制度が必要なケースに至っていないが制度を全員が学ぶ機会を持てるように、又運営推進会議の開催を行いたい。 | ○ | 運営推進会議の開催。 |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br><br>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 柏木内科と隣接しており、利用者の変化や健康面で心配事がある場合、その都度医師、看護士に相談ができる。<br>通院は基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行するようにしている。 | | |
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援<br><br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 入居者のなかには、定期的に大江病院等の精神科の外来を受診される方がいるので、職員が付き添いし現状についての相談等を行っている。<br>事業者が、十勝認知症を考える会の理事であるのと医師なので随時指導助言をしてくれる。 | | |
| 45 | ○看護職との協働<br><br>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 柏木内科よりホームに常時看護師が来るので、入居者の状態を把握しているので気軽に相談でき、非常に心強い。<br>事業所が看護士の配置の形態なので、医師との連携も密にとれる体制がとられている。 | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働<br><br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 現在入院は柏木内科院長にお願いして、十勝の杜病院と連携しており、非常に協力的にしてもらっている。<br>情報交換、相談等含めて非常に良好である。<br>早期退院に向けた情報交換や相談し、安心して帰設できるように協力病院とは普段から連携を取りあっている。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br><br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | 入居者には100歳前後の方も入所しており、本人と家族の希望で一生当ホームに居たいとされる時はそのように対応している。<br>終（つい）のすみかと全員がなれるよう取り組んでいる。 | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援<br><br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | 本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い入居者が安心して最期が迎えられるように意志を確認しながら行っている。<br>急変した場合は、すぐに対応していただけるように医療機関と蜜に連携を図っている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 49 | ○住替え時の協働によるダメージの防止<br><br>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。 | 別に移り住む際、入居者の環境や暮らし方によるダメージが最少となるように移り住む先の関係者に対して本人の状況、習慣、好みなどをプライバシーに配慮しつつ行っている。<br>これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝えている。 | | |
| Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援<br>１．その人らしい暮らしの支援<br>（1）一人ひとりの尊重 | | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。 | 勉強会、ミーティングで意識向上を図っている。<br>日々の関わりを皆で振り返り、入居者のプライバシーを損ねない対応を図っている。 | ○ | 全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図っている。 |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br><br>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。 | 本人の希望、願いを意図的に引き出すような声掛けを日常的に心掛けている。<br>意思表示が困難な方には、表情や態度で読み取るようにし、小さなことでも本人が自分で決定できる場面を作るようにしている。 | | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 一日の流れはあるが、本人の気持ちを考え、できるだけ個別性のある支援を行っている。<br>買い物、散歩等は状態や思いに配慮しながら対応できるように努めている。 | | |
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援<br><br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 本人主体で身だしなみを整えられるように、職員は不十分なところ、乱れをさりげなく直すようにしている。<br>自己決定がしにくい入居者には本人の気持ちに沿った支援を心掛けている。 | | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 献立作りから調理、片付けの流れを、利用者の意志、気持ちを大切に進めるよう努めている。<br>調理、盛り付け、片付け等も入居者と共に行うようにし、食事を大切な活動としている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 55 | ○本人の嗜好の支援<br><br>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 一人ひとりの嗜好物を聞き取り、本人の様子や時間をみながらそれらを楽しめるように支援している。<br>一人ひとりの好みや意向を大切にするように心掛けている。 | | |
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援<br><br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 一人ひとりのトイレサインを全職員が把握し、本人が傷つかないように手早く支援している。 | ○ | 排泄自立を支援する。 |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 週2回の入浴を設定しているが、その日の気分で拒否したり騒いだりするので無理強いはせずにその人その人のタイミングをみて、入浴を楽しめるようにしている。<br>入浴困難な入居者には、一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援<br><br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 安眠できない入居者には、原因を見極め、1日の生活リズムを作り、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や表情から、個別に休息を取り入れるようにしている。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 入居者の経験や知恵などを発揮してもらえる場面を作るようにしている。<br>行事、買い物、散歩等は入居者と相談しながら行っている。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 家族よりお金を預かり、ホームで管理している人でも、買い物等では自分で払ってもらえるよう支援している。 | ○ | 日常的な買い物の支援。 |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 本人の希望に応じて、心身の活性につなげるため、日常的に散歩や買い物等に出かけている。<br>歩行が難しい方でも、本人の体調、希望に応じ、車イス等を利用し外出することを積極的に行っている。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。 | 本人が行きたい場所、外出については、職員の勤務調整、家族の協力を得て行っている。<br>実現するために方策を職員同士で検討している。 | | |
| 63 | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるように支援している。<br>会話が他の入居者に聞こえないように子機を手渡し、お部屋で気軽にかけれるようにしている。<br>家族や友人に電話しやすい雰囲気作りを行っている。 | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | 仕事帰りや都合のいい時間帯に、いつでも気軽に来ていただけるように雰囲気作りを心掛けている。<br>希望があれば、気軽に泊まってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアを行っている。<br>権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の共有認識を図っている。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。<br>一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく察知し、自由な暮らしを支援している。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 67 | ○利用者の安全確認<br><br>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員は、入居者と同じ空間で作業等を行うようにしている。<br>リビングを隣り合わせて詰所と台所を設置しているので、常に目が行き届くようにしている。<br>夜間は数時間ごとに入居者の様子を確認し、24時間入居者の安全に配慮している。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管･管理<br><br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 入居者の状況に応じ、注意を促していくなどの対応をしている。<br>危険を防ぐための検討など、職員全員で話し合いを行っている。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み<br><br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 事故や火災等を未然に防ぐための方策や一人ひとりの状態から考えられる危険を常に検討している。<br>入居者の想定される事故を職員で話し合い、危険を検討し事故防止に取り組んでいる。 | | |
| 70 | ○急変や事故発生時の備え<br><br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。<br>ホームでも定期的に訓練を行い、実際の場面で活かせるように日頃から行っている。 | | |
| 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 入居者とともに避難訓練を行っている。<br>消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。<br>職員と入居者が一緒に年間を通じた訓練を繰り返し行うことで、現状の避難策について検討している。 | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族との話し合い<br><br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。 | 個別的にリスクについての定期的な見直しを行っている。<br>家族には一緒に話し合いに参加してもらい、またホームでの取り組みを丁寧に説明し、理解していただいている。<br>入居者一人ひとりに起こりうるリスクについて把握しており、家族に対して対応策を説明している。 | | |
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応<br><br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 普段から職員は状況を把握していて、様子等の変化が見られた時は変化時の記録を付けて状況により医療受診につなげている。<br>早期発見に取り組み、些細なことも見落としのないようにしている。 | | |
| 74 | ○服薬支援<br><br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 全職員が薬の内容（目的、用法、用量、副作用）を把握し、薬剤シートを用意している。<br>状況の変化を見落とさず、変化がある時は看護職員、医療機関との連携を図っている。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応<br><br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。 | 繊維質の多い食材や乳製品を採り入れるようにしている。<br>日中、運動、身体を動かす機会を適度に設け、自然排便ができるようにしている。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持<br><br>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 入居者一人ひとりのできる力に応じて、職員が見守ったり介助を行っている。<br>地域の口腔ケアの研修会で歯科医師のアドバイスを受け実践している。 | | |
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事の摂取状況を毎日チェックして職員が情報を共有している。<br>一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら栄養のバランスにも配慮している。 | | |
| 78 | ○感染症予防<br><br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等） | 入居者および家族に同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。<br>感染予防としてペーパータオルを使用する等、予防も徹底している。<br>ホーム内で起こりうる感染症について勉強会などを開き学習運営し、予防に努めている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 79 | ○食材の管理<br><br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | まな板、ふきん等は毎日漂白し、清潔を心掛けている。<br>新鮮で安全な食材を使用するため、冷蔵庫、冷凍庫の食材を確認するように取り決めて行っている。<br>食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしているが、無駄なく使用できるよう工夫したり、職員で話し合うこともしている。 | | |
| ２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（１）居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br><br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 明るい雰囲気の玄関になるように花を活けたり、写真を飾ったり工夫している。<br>プランターなどを置いて、季節感を演出している。 | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | フロアーの飾りつけなど、入居者と一緒に考え取り組むようにしている。<br>自分の家と思える空間作りに配慮している。 | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br><br>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 椅子を置き、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを作っている。<br>談話室を設け、居心地の良い空間を作っている。 | | |
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 自室との違いによる不安を最小限にするため、使い慣れた馴染みの物を置くなど、本人や家族と相談しながら落ち着ける部屋作りを行っている。<br>部屋全体が落ち着ける空間となるように、本人の希望、好みをさりげない会話から見つけ出すよう心掛けている。 | | |
| 84 | ○換気･空調の配慮<br><br>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 入居者の発汗の様子や冷えなどに注意して調整するようにしている。<br>外気との温度差がある時は、温度計、利用者の様子をみながら調整を行っている。 | | |
| （２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |

| 項目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容 ・ 実施していない内容） | ○印<br>（取組んでいきたい項目） | 取組んでいきたい内容<br>（既に取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br><br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 入居者の状態にあわせて、手すりなど居住環境が最適かを見直し、安全確保と自立への支援を行っている。<br>生活空間で、転倒につながるものはないか、常に確認している。 | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり<br><br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 失敗や混乱が発生した場合は、その都度職員全員で話し合い、本人が力を活かせる環境づくりをしている。<br>認識間違いが起きやすい環境面の改善に努めている。 | | |
| 87 | ○建物の外回りや空間の活用<br><br>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 庭に花を植えたりし、楽しみながら活動できるように環境づくりを行っている。<br>玄関先にベンチを置いて、外気浴を楽しむ等の心身のリフレッシュを支援している。 | | |